

NEWSLETTER

R4年度 第1回 10月21日(金)

発行：電気情報工学(E)コース図書委員

M・EコースとL1、L2の学生の推薦図書を紹介します。
ぜひ一度手に取って本の楽しさを知ってみませんか？

『シャーロック・ホームズ シリーズ』

アーサー・イグナティウス・コナン・ドイル

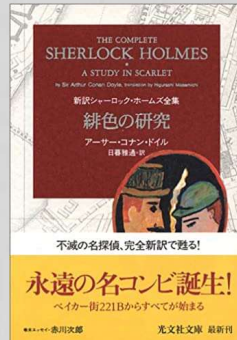
(L1 岩重伶音)

アフガニスタンに軍医として出陣したジョン・H・ワトスン。彼は戦地で負傷し、凶悪な病にかかり帰還する。てごろな宿を探す中、古い友人の紹介で同居人を探すシャーロック・ホームズと出会う。

奇妙な知識、奇妙な特技、奇妙な客、そしてなによりシャーロック・ホームズ自身に興味を抱いたワトソンは彼の口から彼の職業を知る。

—世界唯一の顧問探偵、と。

ホームズの超人的な推理力とワトソン視点で描かれる妖しい事件の数々。あなたもきっとこの魅力に読む手が止まらなくなります。是非読んでみてください。



《先生のおすすめ!!》

『天切り松 闇がたり』 浅田 次郎

(電気情報工学コース 助教 角館 俊行)



本を読み始めたきっかけは、サッカーで大怪我をして、2-3ヵ月入院していたときだと思えます。一日中、病院のベッドの上だけで過ごしてトイレにすら行けない状態でしたが、本がどうしようもない時間と気持ちを和らげてくれたと感じています。

『電車男』 中野 独人

(E5 服部慎司)

一目でオタクと分かるようなオタクの主人公。

ある日彼は、電車で中年男性に絡まれている若い女性を助ける。美しい彼女に彼はすっかり心を奪われたが、後日彼女からのお礼にももらったティーカップをもらっても、恋愛経験のない彼はどうしていいかわからず、インターネット掲示板に助けを求める。

その掲示板で彼は「電車男」と呼ばれるようになる。

ネットスラングが多く普段小説を読まない方でも読みやすいと思います。

是非読んでみてください。



今回紹介する、天切り松 闇がたりシリーズは、みなさんと同じ10代・20代のときに手に取り、カッコいいな、続きが読みたいなと感じた本です。これまで計五巻が出版されており、目細の安吉親分をはじめとする盗人一家、松蔵、寅弥、栄治、常次郎、おこんの数々のエピソード、大正・昭和の人情噺が短編として描写されています。常に科学技術に接しているからこそ、その対極ともいえる情にグッとくるのかもしれない。頭の中でイメージしやすい物語なので、本に馴染みがない方や長編が苦手な方でも気軽に読めるかなと思います。TVドラマや漫画にもなっているようです。是非ご一読ください。

『コミュニケーション・ストレス』 黒川 伊保子

(M5 若竹勇人)

男女の間に起きているコミュニケーションの問題について解説している本になっており、原因とお互いに向き合っていけばいいのが書いてあります。

共感することも多くこれからの社会を生きていく私たちに必要なものだと思います。また、文章もわかりやすいので普段あまり本を読まない人も読みやすい本になっていると思います。

4年生では、コミュニケーションについての本を読まなければならないと思うのでぜひこの本を参考にしたいと思います。



P.S 工学と縁がある、森博嗣さんや東野圭吾さんの作品も多く読んでいました。

八戸高専の図書館にもいくつかあるようです!

『medium 霊媒探偵城塚翡翠』 相沢沙呼 (L2 村岡穂子)

主人公の香月史郎は霊媒師・城塚翡翠がその能力を活かして見つけた犯人の証拠を集め、様々な殺人事件を解決していく。霊媒という非現実的な能力を使いながら、論理的な推理が見どころのミステリ小説。その裏で動いていた連続殺人事件。証拠を残さない犯人に挑む二人に注目である。「すべてが、伏線。」というキャッチコピーへの期待を裏切らない作品となっている。あなたはこの本に散りばめられた違和感に気づくことができるだろうか。是非一度手に取って読んでみて欲しい。"



『人間失格』 太宰治

「私はその男の写真を三葉、見たことがある。」葉蔵-葉ちゃんと呼ばれた醜い笑顔を貼り付けた男の子、またはおそろしく美しい造り物のような青年、または全く特徴がなく、年さえ分からぬ程の奇怪な男-の半生を綴った手記である。「恥の多い生涯を送って来ました」自らをそう卑下し、幼い頃から違和感を抱え、道化を演じて生きてきた男の話です。太宰の、読者個人に語りかけるような文体に引き込まれ、男の見てきたであろう視界、世界、思考、他人が自然と心に入り込んできます。短い小説ながらも今なお読み続けられるこれは、太宰の生涯の集大成とも言えるでしょう。是非、1度は読んでみて下さい。

(M2 八百理人)



『フーガはユーガ』 伊坂幸太郎

双子の兄、常盤優我はファミレスである男に語った。双子の弟の風我のこと、不幸であった子供時代のこと。そして彼らの誕生日にだけ使える、彼等双子だけの「特殊な能力」について。成長するにつれ沢山の出会いを経験した双子は、その特殊能力を用いてある敵に立ち向かっていく……。
場面の転換の書き方が秀逸で、何度も視点が切り替わるうちに次々と謎が生まれ、飽きずに思わず夢中で読んでしまうととても面白い作品です。是非、読んでみてください。

(E3 佐藤妃憂)



『ゼロからわかる数学 数論とその応用』 戸川美郎 (E2 浜飯彩純)

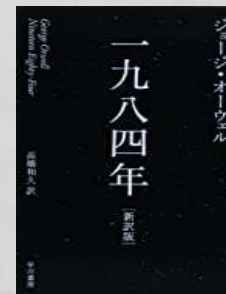
高度な前提知識を必要しない、とても分かりやすい整数論の入門書です。高校数学でも扱われる合同式から剰余系、また、数学の基礎である集合や写像の概念を易しく解説し、数学オリンピックの解法としてよく用いられるフェルマーの小定理などが載っています。第6章では、数論と暗号の関係を解説しています。これまで勉強した数学が実際に応用されていることを知ることができるので、読んでいてとても楽しいです。数論や数学オリンピックに興味があるけれど何からやればいいのか分からないという方におすすめの本です。



『1984年』 G・オーウェル

(M3 根城 仁基)

「革命」後、社会主義となった英国。役所で働くウィンストンは、党が都合よく修正する過去を疑い始める。党の教訓を否定しようとするほど彼は正気を失っていく...「現実には党の精神のなかにのみ存在する。」私の好きな台詞です。国のフェイクニュースを信じきり自分を半分騙して生きる、という作中の世界観を端的に表しています。長い小説ですが、読めば読むほど、私たちの見る現実を揺さぶる一冊です。社会主義やディストピアに興味のある方へ、ぜひ一読することをオススメします。ロシアのように発禁にならないうちに...



『コンビニ人間』 村田紗耶香 (M4 熊谷洋飛)

主人公の古倉恵子は36歳独身、コンビニでアルバイトをしていた。彼女は幼いころ周りから奇妙に思われる子供で感情と呼べるものがなく両親からはどうしたら治るのかと思われるほどだった。しかし大学生になった彼女は完璧なマニュアルによって動くコンビニで働くことになり、普通に向かって一歩を踏み出すことになるのだった。短い内容なのに何度も笑ったり考えさせられたりして、満足感を得ることができる作品になっているのでぜひ読んでみてください。



『狂気の山脈にて』 ハワード・フィリップス・ラヴクラフト

(E4 西田 士道)

これは、1930年から31年にかけて南極大陸に滞在したミスカトニック大学探検隊の隊長、地質学者ダイアーの手記である。探検隊の主目的は、最新のドリルを使った岩石や土壌の確保にあった。好奇心から生物学者レイクは先に北西部の調査へ向かうこととなる。その後レイクから入った通信によると、彼らはエヴェレストを越える大山脈を発見したという。吹き荒れる強風の影響のためか、突然レイクから連絡が途切れてしまう。先行隊を追いかけ、レイクのベースキャンプにたどり着いたダイアーらが目にしたのは、信じがたい惨劇の跡だった……。私はこの作品で触れてはいけない未知のものへの好奇心と恐怖が感じられるのが好きです。是非この作品を一度読んでいただきたい。

